

# クレドール(金の鍵) 便り



最近の利用者様の好事例をご紹介します

## ① 80歳代女性 5ヶ月で腰痛ほぼ消失 デイケアに参加可能となった症例

開始当初、両下肢の浮腫・右下肢の痺れや痛みにより活動量が低下、浮腫の改善・1日1回屋外歩行。自宅内の活動量が多くやや腰椎下部の圧壊がみられ、**コルセットの装着や動作指導など早期に圧迫骨折に対する治療プログラムへ変更したことで著明な圧壊予防や疼痛軽減、積極的な近隣への外出へ繋がった。**また運動に対して消極的なため、リラクゼーション中心から徐々に運動量を増加させたことで無理なく運動を継続ができた。さらに、おもてなしを大事にされている方でもあり、訪問時は訓練と合わせて少しだけお話を伺う時間を作ったことで、**精神的な面のサポートにも繋がったと考える。**急性期の時期に対する適切な対応とご本人様の希望を傾聴しながら徐々に訓練を進める事が出来たことでスムーズな回復と社会復帰に繋がったと考える。5ヶ月後に腰痛はほとんど消失した。両下肢浮腫・右下肢の痺れや痛みは残存しているものの訴えは軽減し、デイケアへも参加可能となり訪問終了の運びとなった。

## ② 独居70歳代女性 左右人工膝関節置換術後 11回のリハビリ(週1)で疼痛消失

通院リハビリ終了後 安眠できないほどの疼痛のため訪問リハビリ依頼あり。

徒手療法の基本である疼痛部位は触らないもしくは最後に触るという概念に沿って施術を行い、**介入直後より膝関節痛の大きな原因となりうる関連痛および姿勢、異常歩行に着目し、その修正に取り掛かる事により疼痛が速やかに改善したと考えます。**その為、疼痛再発時も姿勢の変化に早期に気づきアプローチを変更出来、スムーズに疼痛消失を促せた。結果として歩容についても体幹の前傾位は軽減し右側屈位は消失した為、疼痛予防も同時に行えたと考えます。

## ③ 80歳代女性 重度の認知症 壊死した褥瘡が看護ケアにより3ヶ月で浅くなり縮小

仙骨部の壊死が増悪し、デイサービスでの入浴、サービスの利用を断られる。ショートステイも処置できないために断られる。ケアマネージャーへ体圧分散マット提案。**看護師より主治医へ特別指示書を提案し集中的にケア実施。**理学療法士のリハビリ週1回(機能評価・ポジショニング指導・拘縮予防)実施。褥瘡悪化時にもなってすぐに医師やケアマネージャーと連携し医療制度、福祉用具やPTによるリハビリの導入をおこなったことで早期に治療、ケアを開始。またご主人の介護方法の見直しをすることで適切な知識、技術の習得だけでなく介護負担も軽減。

クレド訪問看護ステーション本部 072-681-4670  
阪急高槻 072-609-5208 吹田 06-6170-6760